

※諸般の事情により、講師やプログラム内容・時間・順序等が変更になることがあります。

1. 基本情報

1) プログラム名 :	大学生・大学院生向け国際協力実務講座
2) 担当者名 :	八星 真里子
3) 期間 (日数) :	2025年8月25日 (月) ~8月29日 (金) 5日間
4) 定員 :	30名程度
5) 言語 :	日本語
6) 主な対象学生 :	国際協力について関心があり、将来、開発途上国の援助に従事したいと希望する大学生・大学院生 専門分野は特に問わない。

2. コンテンツ

本プログラムの目的	国際協力実務経験者からの講義、国際協力や社会課題解決に深く関連したワークショップ等を通じて、以下の目的・期待を達成することを目指しています。 ●受講時の目的：受講者が、国際協力を深く理解し、国際社会の課題に主体的に向き合い、ステークホルダーと対等なパートナーシップの下で取り組む意識を獲得すること ●受講後の期待：受講者が、将来的に国際協力の担い手やグローバル人材として、持続可能な社会の構築に貢献すること
-----------	---

3. 日程表

1日目：2025年8月25日 (月)

オンライン (希望者は対面出席可)

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
オンライン	10:00-11:00	主催者挨拶 オリエンテーション	JICA筑波 ジールエム・インスティ チュート (GLMi)	●プログラムの目的・流れを理解する ●参加者の緊張を和らげる ●参加者が互いの背景や関心を把握する
	11:00-12:00	世界の課題とSDGs (途中 休憩10分)	JICA筑波	●国際社会で取り組むべき課題は幅広く複雑に関連し合うことを理解する ●SDGsについて理解する ●現在における持続可能な社会の構築やSDGs達成への寄与の重要性を理解する
	12:00-13:00	昼休憩		
	13:00-14:20	日本のODAとJICAの事業 (途中 休憩10分)	JICA筑波	●日本のODAの目的や仕組みを理解する ●JICAの事業・プロジェクトの流れを理解する
	14:20-14:40	休憩		
	14:40-16:00	JICA職員の仕事	JICA在外事務所所員	JICAの計画・立案や調整を担う職員がどのような仕事をしているのかを知る

2日目：2025年8月26日 (火)

オンライン (希望者は対面出席可)

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
オンライン	10:00-10:30	前日の振り返り・シェアリング	GLMi	獲得した知識などを整理し、新たな学びに備える
	10:30-11:20	多様な国際協力アクター	JICA本部	●NGO・個人等の市民社会や民間企業も国際協力に取り組む重要なアクターであることを理解する ●JICAがあらゆるアクターとの連携を構築し、発展させていることとその有効性を理解する ●国際協力でのキャリア形成を知る
	11:20-11:30	休憩		
	11:30-13:00	NGOの現場から学ぶ課題解決のアプローチ	国際協力NGO	特定のNGOのプロジェクトが何を指し、どのようなアプローチで課題を解決し、日々どのような仕事をしているのかを知る
	13:00-14:00	昼休憩		
	14:00-14:20	JICA×NGOの取り組み	JICA筑波	JICAのNGO等への活動支援や草の根技術協力事業の目的・特徴等を知る
	14:20-14:40	休憩		
	14:40-16:10	開発コンサルタントの仕事	開発コンサルタント企業	特定のJICAプロジェクトが何を指し、どのようなアプローチで課題を解決し、日々どのような仕事をしているのかを知る

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
オンライン	10:30-11:00	前日の振り返り・シェアリング	GLMi	獲得した知識などを整理し、新たな学びに備える
	11:00-12:00	「共創」のちからを育むJICAの本邦研修	JICA筑波	●JICA本邦研修の概要を知る ●特定の研修コースが何を指し、どのような活動を行い、どのような内容を学んでいるのかを知る
	12:00-13:00	昼休憩		
	13:00-13:20	JICA×民間企業の取り組み	JICA筑波	JICA民間連携事業の目的・特徴等を知る
	13:20-14:20	民間連携事業の事例から学ぶ「Win-Win」の関係構築	民間企業	特定の民間連携事業が何を指し、どのように製品・サービスを活用し、日々どのような仕事をしているのかを知る
	14:20-14:30	休憩		
	14:30-14:45	JICA海外協力隊の取り組み	JICA筑波	JICA海外協力隊事業の目的・応募方法等を知る
	14:45-16:15	JICA海外協力隊経験者との対話と交流	元JICA海外協力隊員	JICA海外協力隊の活動や帰国後の進路等を知る

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
JICA筑波	09:30-10:00	対面アイスブレイク・前日の振り返り	GLMi	●参加者がさらに互いの背景や関心を把握する ●獲得した知識などを整理し、新たな学びに備える
	10:00-13:00	PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）「計画・立案」体験研修①（途中 休憩10分程度）	開発コンサルタント	●PCMに対する理解を確保する ●PDM全体の読み方とPOの重要性を理解する ●問題分析の手順・留意点を理解する ●目的分析の手順・留意点を理解する ※PCM手法の要点を体験的に学びます（以下同）
	13:00-14:00	昼休憩		
	14:00-16:00	PCM「計画・立案」体験研修②（途中 休憩10分程度）	同上	●プロジェクト選択の手順・留意点を理解する ●PDM要約・投入の手順・留意点を理解する
	16:00-17:00	プロジェクト案の共有・発表（作成したプロジェクトの要約と投入）	同上	●国際協力プロジェクト立案のイメージを獲得する

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
JICA筑波	09:30-10:00	前日の振り返り・シェアリング	GLMi	獲得した知識などを整理し、新たな学びに備える
	10:00-11:30	プロジェクトのモニタリング体験ワークショップ	開発コンサルタント	プロジェクト現場で直面しうる業務・活動上の課題、原因の探り方の一例を知り、解決策を検討するイメージを獲得する
	11:30-11:45	休憩		
	11:45-12:30	JICAつくば地球ひろば「世界の食と農」見学	JICA筑波	●体験型展示・JICAつくば地球ひろばを見学し、JICAや国際協力について学ぶ
	12:30-14:00	途上国から学びに来ている研修員とのランチ交流会	JICA研修員（JICA筑波の研修コースの研修員）	●研修員の出身国や本人の業務・研究について知る ●研修員と意見を交換する・交流する
	14:00-15:30	未来を描くキャリア相談会	JICA職員、開発コンサルタント、NGO職員等	●国際協力分野の仕事の種類や必要な能力・経験・スキル、キャリアパスの例等を知る ●キャリアについて相談する機会を得る
	15:30-15:40	休憩		
	15:40-16:40	最終の振り返り・シェアリング（学びと将来像）	GLMi	講座で得た学びと将来に向けた意識を他の参加者と共有し、今後に向けてのモチベーションとヒントを得る。 ●講座全体を通じて、どのような学びを得たか。 ●講座での経験をどのように活用しようと考えているか。 ●将来、自分自身はどのようにありたいか。
	16:40-17:00	閉会の言葉 事務連絡・アンケート回答	JICA筑波 GLMi	

## 3. 留意事項

- ・国際協力に関する基礎的な知識を得ると共に、国際協力の実務について学べる内容です。
- ・ディスカッション、ワークショップなど参加型のセッションでは、積極的に参加する姿勢を求めます。
- ・構成の順番や詳細、テーマ名、講師などは上記から変更になる可能性があります。
- ・原則、全日程の出席が必要となります。
- ・1～3日目は、オンライン・対面いずれかの出席方法を選べます。ただし、対面参加の希望者数が一定数に達しない場合は、オンライン開催のみとなりうることを予めご了承ください。出席方法は、参加決定後におたずねします。
- ・発熱、咳、咽頭痛、息苦しさ、味覚・嗅覚異常などの症状がある、体調がすぐれない、強い疲労感や倦怠感がある場合は、参加をご遠慮ください。
- ・対面参加の日は、終了後に参加者間などで交流することも可能ですので、公共交通機関の状況も踏まえて、時間の余裕を確保してください。

## 4. 学生さんへ一言

将来、国際協力に関わりたい、グローバルな環境で仕事がしたい、社会に貢献できるキャリアを重視したいなど、積極的な学生の参加を歓迎します。授業で学ぶ国際協力以外にも現場レベルでの国際協力の取り組みについて学びたいと考える人にお勧めです。

1. 基本情報 **\*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承ください。**

1) 研修コース名：	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術
2) 担当者名：	篠原 美恵子（研修コース委託先業務総括：五百木 氏）
3) 期間（日数）：	2025年7月22日（火）～2025年7月25日（金）
4) 定員：	最大受入人数4人
5) 言語：	英語（実施内容を英語実施のため理解できること）※目安（TOEIC600点、TOEFL510点「CBT180点/iBT64点」、IELTS5.0程度）
6) 主な対象学生：	野菜栽培分野に興味・関心のある生物学系、農学系、開発学（但し、農業に係るフィールドを基礎）関係の3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国：	カンボジア、ガンビア、インドネシア、ラオス、ネパール、パプアニューギニア、スリランカ、トンガ、ウズベキスタン、バヌアツ

## 2. コンテンツ

本プログラムの目的	講義及び実習を通じて、主要な野菜の栽培技術等の基本を理解する。
-----------	---------------------------------

## 日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要（狙い）
2	2025/7/22	火	09:15-09:30	ブリーフィング		
			09:30-12:00	鮮度保持実験（果菜類）調査・結果検討	実習	7月17日から開始したトマト・ピーマンの鮮度保持実験計測データをまとめ、結果を検討する。
			13:30-16:00	トマト採種（摘果、採種、発酵準備）	実習	トマトの採種技術を実習する。種子の抽出・発酵・乾燥の過程を学ぶ。
3	2025/7/23	水	09:30-12:00	直売実習準備（POP作成、収穫、梱包等）	実習	直売実習のためのポップ作成、包装等を前々日（22日）の検討を踏まえて準備する。
			13:00-13:30	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り（受講者から所感、質疑含め）。
			13:30-17:30	直売実習（POP作成、梱包、売場作り等）、模擬店開店（4:30～5:30）	実習	模擬店を準備・陳列し、販売実習する。
4	2025/7/24	木	09:30-12:00	野菜苗の土壌病害防除実験 2（病斑観察）	実習	病理実験室で各種の病斑の観察、顕鏡を行う
			13:30-16:00	直売実習振り返り トマト採種（種子洗浄・乾燥調整）	実習	直売実習の結果を振り返る。 発酵によりゼリー除去したトマト種子を洗浄、乾燥する。
5	2025/7/25	金	09:30-12:00	JICA公開プログラム「ちびっ子博士」 11:00-12:00（準備 09:30-11:00）	実習	JICA筑波の公開イベント「スイカ博士」の準備と実施（開始10:30）。来場した小学生にスイカの基本知識を紹介し、糖度測定を体験させる。
			13:30-16:00	個別実験管理/データ集計・統計処理	実習	研修員が自国の職場で直面している野菜栽培課題に関連する栽培実験。栽培管理やデータ計測を行う。
			16:15-17:15	報告発表		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。

## 3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"><li>・特に朝の開始は時間厳守とします。</li><li>・日程については、今後の研修日程の都合・天候対応などで変更の可能性があります。</li><li>・圃場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴（作業着及び長靴等）を準備してください。また、講義の日でも作業が出来る服装をお願いします。</li><li>・日没まで作業をしていただくこともあります。</li></ul>
---

## 4. 学生さんへ一言

一日の実習・講義終了後には、研修員と一緒に圃場をまわってください。研修員が取り組んでいる実習について説明してくれますので、意見交換など交流を図っていただければと思います。
---

## 5. その他

講座最終日（予定）には、各受講生には、プログラム中の学びについて研修員等に対し、プレゼンテーション（英語）をしていただきます。
---

## プログラムNo. 3 : 「アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)」コース プログラム概要票

1. 基本情報 **\*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承ください。**

1) 研修コース名 :	アフリカ地域 市場志向型農業振興(普及員)
2) 担当者名 :	根本 拓哉 (研修コース委託先業務総括 : 中田氏)
3) 期間(日数) :	7月22日(火)~25日(金)の4日間。 希望者は8月20日(水)、9月11日(木)または9月22日(月)の各発表会にも参加可能。
4) 定員 :	受入人数 3~4人
5) 言語 :	英語(実施内容を英語で理解できること) ※目安(TOEIC650点程度)
6) 主な対象学生 :	農学系または、開発学関係学部(但し、生物資源生産等に係るフィールドを基礎)在籍で、園芸作物栽培分野に興味・関心のある学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国 :	ボツワナ、エチオピア、ガーナ、レソト、マラウイ、ナミビア、南スーダン、ウガンダ、ジンバブエ

## 2. コンテンツ

本プログラムの目的	園芸作物栽培技術に係わる実験実習を研修員と共に体験し、研修員との交流を通じて研修員の出身国に対する理解を深める。
-----------	--

## 日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要
1	2025/7/22	火	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	鮮度保持試験(処理区の設置)	実習	温度、湿度など収穫後の貯蔵条件がトマト果実の鮮度保持に与える影響を学ぶ
			13:30-16:00	メロン品種比較試験(収穫調査)/カボチャの出荷調整	実習	品種比較試験のメロンを収穫する/前週に収穫したカボチャ出荷調整をする
2	2025/7/23	水	09:45-12:15	メロン品種比較試験(果実調査)	実習	品種特性を理解するため、果実の形態について測定する
			13:30-16:00	メロン品種比較試験(食味試験)	実習	品種特性を理解するため、消費者の視点で果実食味を評価する
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り(受講者から所感、質疑含め)
3	2025/7/24	木	09:45-12:15	間引きによる出荷規格調整(収穫)	実習	ニンジンの株間の違いによる出荷規格と卸売値への影響を学ぶ
			13:30-16:00	間引きによる出荷規格調整(出荷調整)	実習	ニンジンの株間の違いによる出荷規格と卸売値への影響を学ぶ
4	2025/7/25	金	09:45-12:15	カボチャ出荷実習振り返り	実習	カボチャの出荷・競りの結果を踏まえて、栽培における改善点などを検討する
			13:30-16:00	個別課題/プログラム発表資料作成	実習	各研修員が取り組んでいる個別課題学習について研修員から説明を受け、内容について理解する。プログラム振り返りにおいて発表する資料の準備にあたる
			16:15-17:15	プログラムの振り返り		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。

## 3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性があります。</li> <li>・圃場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴(作業着及び長靴等)を準備してください。</li> <li>・開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。</li> </ul>
---

## 4. 学生さんへ一言

<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフリカ・アジアからの研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく実りあるプログラムにしたいと思います。</li> <li>・コミュニケーション手段は英語です。臆せず積極的にご参加ください。</li> <li>・各研修員が取り組んでいる個別実験について、興味ある分野・国があれば、積極的に聞き取りを行うなど交流を図って下さい。</li> </ul>
--

## 5. その他

上記7月22日(火)から7月25日(金)の4日間をプログラム期間とし、その他に8月20日(水)に開催する「共通実験に係わるポスター発表会」、9月11日(木)の「個別課題レポート発表会」、または9月22日(月)の「インテリムレポート検討会」に参加することも可能。
--

1. 基本情報 \*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承ください。

1) 研修コース名 :	稲作技術向上 (普及員) コース
2) 担当者名 :	落合 智佳子 (研修コース委託先業務総括 : 宍戸氏)
3) 期間 (日数) :	9月1日 (月) ~9月5日 (金) 5日間
4) 定員 :	受入人数 2人程度
5) 言語 :	英語(実施内容を英語実施のため理解できること) ※目安(TOEIC600点程度) 必ずしもTOEIC等の点数が十分でなかったとしても、積極的に研修員と言語・非言語のコミュニケーションを取る姿勢を有すること。
6) 主な対象学生 :	生物学系、農学系、開発学 (但し、農業に係るフィールドを基礎) 関係の学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国 :	ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、コンゴ民主共和国、ガンビア、ガーナ、リベリア、マダガスカル、モザンビーク、セネガル、南スーダン、ウガンダ、ザンビア

2. コンテンツ

本プログラムの目的	実験・実習を通して稲作技術 (特に収量調査) を理解するとともに、研修員との交流を通じて異文化を理解する。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	概要
1	2025/9/1	月	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション (日本語)	関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-09:40	大学生講座参加者の自己紹介	
			09:45-12:15	光合成と乾物生産② (講義)	
			13:30-16:00	実験/実習 (収穫及び収量調査)	
2	2025/9/2	火	09:45-12:15	実験/実習 (収穫及び収量調査)	・坪刈りや五斜線法によるサンプリング収穫を行い収量調査を実施する。 ・バインダーやコンバインによる機械による収穫作業を実習する。 ・実験グループ別に区画ごとのサンプル株を用いて収量及び収量構成要素を比較検討することにより稲の特性 (特に収穫量) を理解する
			13:30-16:00	実験/実習 (収穫及び収量調査)	
3	2025/9/3	水	09:45-12:15	筑波大学 T-PIRC 10号圃場 収穫作業、脱穀等	
			13:30-16:00	筑波大学 T-PIRC 10号圃場 収穫作業、脱穀等	
			17:00-17:30	中間レビュー (日本語)	
4	2025/9/4	木	09:45-12:15	実験/実習 (収穫及び収量調査)	
			13:30-16:00	実験/実習 (収穫及び収量調査)	
5	2025/9/5	金	09:45-12:15	実験/実習 (収穫及び収量調査)	・坪刈りや五斜線法によるサンプリング収穫を行い収量調査を実施する。 ・バインダーやコンバインによる機械による収穫作業を実習する。 ・実験グループ別に区画ごとのサンプル株を用いて収量及び収量構成要素を比較検討することにより稲の特性 (特に収穫量) を理解する
			13:30-16:00	図表の作り方 (講義)	
			16:15-17:15	プログラム振り返り (英語)	

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記日程表は現時点での案であり、稲の生育状況、天候等の都合により変更の可能性があります。</li> <li>・JICA筑波の圃場または筑波大学農場における作業 (収穫及び収穫前の収量調査やサンプリング作業がメイン) を行いますので、研修員同様に水田内に入り稲刈り鎌を使います。そのため長靴 (田植え長靴ではない通常のゴム長靴) と作業手袋、汚れてもよい作業服、帽子、雨除けのレインコートを持参してください。</li> <li>・稲刈りの機械実習では安全のため髪の毛の長い方は対策をお願いします (束ねるか三つ編みにして帽子内に収めるなど)。また機械の扱いに危険な服装や身なりと判断される方は、代わりに機械を扱わない他の作業を行っていただきます。</li> <li>・開始時間には時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。</li> </ul>
---

4. 学生さんへ一言

国内での国際協力現場を体験できます。研修実施関係者や研修員と積極的に関わることで、稲作技術以外にも、多くのことを学べる実りあるプログラムとなります。英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。
--

5. その他

・一定の自然科学的知識を有している学生を対象として想定しているため、文科系の方には分かりにくい部分があることをあらかじめ了承の上ご参加下さい。
---

## プログラムNo. 5 : 「天水稻栽培・種子生産及び品種選定技術」コース プログラム概要票

## 1. 基本情報

\*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名 :	天水稻栽培・種子生産及び品種選定技術
2) 担当者名 :	松井 駿 (研修コース委託先業務総括 : 浦山氏)
3) 期間(日数) :	9月1日(月)~9月5日(金)5日間
4) 定員 :	受入人数4人程度
5) 言語 :	英語(実施内容を英語で理解できること) (※目安 TOEIC 550点以上程度)
6) 主な対象学生 :	生物学系、農学系、開発学(但し、農業に係るフィールドを基礎)関係の学部3年生以上及び大学院生が望ま
7) 研修員の出身国 :	バングラデシュ、ガイアナ、エチオピア、ガーナ、ウガンダ、アンゴラ、カメルーン、シエラレオネ

## 2. コンテンツ

本プログラムの目的	アフリカのネリカ稲(NERICA)を含む稲の栽培、種子生産、品種選定について学び、コメ生産を通じてアジア・アフリカ地域の貧困問題、食糧の安定供給について考えます。
-----------	---

## 日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形式	概要
1	2025/9/1	月	09:00-09:25	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:45-12:15	個別実験調査: 収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
			13:30-16:00	個別実験調査: 収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
2	2025/9/2	火	09:45-12:15	稲の収量と収量構成要素 1	実習	稲の収量調査方法と収量構成要素について
			13:30-16:00	個別実験調査: 収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
3	2025/9/3	水	09:45-12:15	稲の収量と収量構成要素 2	講義	収量の成り立ちについて(何故収量構成要素が必要か)
			13:30-16:00	稲収量調査の実際	講義	品種の選定方法と純系系統種子の収穫
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り(受講者から所感、質疑含め)
4	2025/9/4	木	09:45-12:15	個別実験調査: 収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
			13:30-16:00	純系系統・原原種種子圃場の抜き取り調査	実習	種子生産圃場における同一品種ではない異形、混ざり品種の抜き取り
5	2025/9/5	金	09:45-12:15	アフリカの稲作	講義	アフリカ諸国の多様な生態系における稲栽培について
			13:30-16:00	個別実験調査: 収量調査	実習	研修員各人の課題栽培実験の調査
			16:15-17:15	プログラムの振り返り		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表

## 3. 留意事項

- ・上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性があります。
- ・実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴を準備してください。
- ・開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。

## 4. 学生さんへ一言

- ・諸国を代表する研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく実りあるプログラムであると同時に、途上国の技術者等への指導業務について、知っていただく機会にしたいと思います。アフリカが抱える食糧問題について皆で考えてみましょう。
- ・英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。
- ・自然科学系の内容ですが、食糧生産に関心の高い社会学系(開発系)の方の応募も受け付けます。

## 5. その他

- ・参加者には、事前に研修員各国の概要など目を通していただければと思います。各国の現状(気候条件や畑作物の作付状況等)や研修員が抱える課題を理解し、関心をもった内容について、講座中はぜひ研修員と積極的に意見交換をしてみてください
- ・実験・実習は畑地が主ですが、小規模な水田(原原種種子生産用)での作業も若干あります。